



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月31日

上場会社名 株式会社エフアンドエム 上場取引所 東  
コード番号 4771 URL <https://www.fmltd.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森中 一郎  
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 森山 大 TEL 06-6339-7177  
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 2023年12月1日  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	6,755	21.8	938	4.3	947	4.1	634	5.8
2023年3月期第2四半期	5,544	21.7	899	20.7	910	20.8	599	21.4

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 634百万円（4.2%） 2023年3月期第2四半期 608百万円（23.6%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	43.46	—
2023年3月期第2四半期	41.07	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	14,405	10,954	76.0
2023年3月期	13,533	10,568	78.1

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 10,954百万円 2023年3月期 10,568百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
2024年3月期	—	19.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	19.00	38.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,414	29.3	2,760	6.1	2,778	6.0	1,941	3.2	133.05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	15,714,400株	2023年3月期	15,714,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,121,831株	2023年3月期	1,121,789株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	14,592,590株	2023年3月期2Q	14,592,646株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法及び決算説明会開催について）

決算補足説明資料は2023年11月1日（水）に当社ウェブサイトに掲載する予定です。  
また、当社は2023年11月1日（水）にアナリスト向け説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは「サービスの水道哲学」の実現を目指し、個人事業主と中堅中小企業の活性化にこだわりをもって社会貢献に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の分類移行に伴う、社会経済活動の正常化が進み、国内景気は回復傾向となっております。

このような経済状況のもと、当社グループでは、顧客を取り巻く環境に合わせたサービス提供を行うべく、主要事業ごとにサービス内容を拡充し業務の効率化に取り組むことで会員数の増加に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は売上高67億55百万円（前年同期比21.8%増）、営業利益9億38百万円（同4.3%増）、経常利益9億47百万円（同4.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益6億34百万円（同5.8%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## (i) アカウンティングサービス事業

アカウンティングサービス事業は、生命保険営業職員を中心とする個人事業主及び小規模企業に対する記帳代行等の会計サービスになります。同事業では、各生命保険会社が新入社員向けに随時行っている研修への参加による営業機会の確保に注力いたしました。その結果、当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）の会計サービス会員数は91,873名（前期末比7,818名増）となりました。

この結果、アカウンティングサービス事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は17億93百万円（前年同期比11.0%増）、営業利益は4億32百万円（同3.2%減）となりました。

## (ii) コンサルティング事業

コンサルティング事業は、中堅中小企業の総務経理部門に対する各種情報提供サービスの「エフアンドエムクラブ」、ISO及びプライバシーマークの認証取得支援、「ものづくり補助金」や「事業再構築補助金」をはじめとした補助金申請支援等になります。

「エフアンドエムクラブ」については、2023年9月末時点で212行庫の地域金融機関と連携契約しております。連携済みの金融機関には、好連携事例の共有や勉強会の開催、結果報告などによる情報共有の強化によって稼働促進を図ることで、営業機会の増強に努めました。また、引き続き中小企業経営者から非常に高い注目を集めている「事業再構築補助金」などの補助金活用を切り口とした提案を行いました。加えて、常態化している人手不足を解消するため積極的に採用活動を行いたい企業、労務管理を適切に行うことで就業環境を整備したい企業、公的支援制度を漏れなく活用したい企業などの経営者ニーズを掴んだことが、新規の会員獲得に貢献しました。会員企業向けには、企業ごとの事情に合わせたタイムリーな提案を可能にするため、人に頼らない定期的な情報収集の仕組みを運用させつつ、状況を継続的に把握している個社担当がいることでの安心感、専門家が対応することでの満足感を提供するサービス体制の構築を進めました。その結果、当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）のエフアンドエムクラブ会員数は9,829社（前期末比782社増）となりました。

ISO及び第三者認証取得支援については、個人情報保護法の改正やサイバー攻撃等による情報セキュリティニーズによるプライバシーマークおよびISO27001、食品業界が海外輸出を目論む事案からISO22000およびFSSC22000、自動車関連製造業では今後のEV対応を睨みIATF16949（自動車部品品質マネジメントシステム）およびISO9001の取得が増加傾向にあります。また、建設資材の高騰のため公共工事への参入を目的に入札要件のISO9001およびISO14001の取得が増加しています。これらの旺盛なニーズへの対応に注力しました。

「ものづくり補助金」や「事業再構築補助金」をはじめとした補助金受給申請支援については、令和元年度補正予算・令和3年度補正予算「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」として、当第2四半期連結会計期間では15次締切の申請支援を行いました。その結果、59件が採択されました。また、「事業再構築補助金」として、第11回締切の申請支援を行いました。第10回締切については採択結果が発表され、147件が採択されました。

補助金名	締切	採択数
ものづくり補助金	14次	81件
	15次	59件
事業再構築補助金	第8回	231件
	第9回	139件
	第10回	147件
	第11回	※

※ 採択結果は発表待ちの状態です（2023年10月31日現在）。

この結果、コンサルティング事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は32億7百万円(前年同期比16.8%増)、営業利益は10億37百万円(同3.6%減)となりました。

(iii) ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業は、士業向けコンサルティング、及び企業・士業向けITソリューションの提供等になります。

士業向けコンサルティングは、認定支援機関である税理士・公認会計士事務所の対応力向上を支援する「経営革新等支援機関推進協議会」等となります。

「経営革新等支援機関推進協議会」では、コロナ禍によって強まった中小企業からの優遇税制支援や財務支援要請に対応するためのノウハウを必要とする税理士・公認会計士の継続的なニーズが、営業機会の確保につながりました。その結果、当第2四半期連結会計期間末(2023年9月30日)の「経営革新等支援機関推進協議会」の会員数は1,711件(前期末比33件増)となりました。

企業・士業向けITソリューションの提供としては、人事労務クラウドソフト「オフィスステーション」シリーズの販売となります。「オフィスステーション」シリーズは、社会保険労務士や税理士向けの「オフィスステーション Pro」、企業向けの「オフィスステーション マイナンバー」「オフィスステーション 労務」「オフィスステーション 労務ライト」(「労務」の機能を一部制限して無料提供)「オフィスステーション 年末調整」「オフィスステーション 給与明細」「オフィスステーション 有休管理」「オフィスステーション 勤怠」(2023年4月リリース)で構成されています。

社会保険労務士事務所マーケットの深耕については、大規模事務所向けのパッケージプランの提案を進めました。大規模事務所からのニーズが強かった事務組合機能をリリースしたことにより、社会保険労務士事務所が求める一定程度の利便性を提供できる環境が整ったことが、販売を後押ししています。既存事務所に向けては、引き続き主に大規模事務所を対象としたハイタッチフォローを継続して行い、事務所での稼働を促進しました。

企業向けにはカスタマーサクセスを稼働させることで、引き続き一社あたりのユーザー数を増大させることに加え、クロスセルの取り組みに注力しました。また、販売代理店となるパートナー企業とは定期的に勉強会を開催したり、主催イベントに参加するなどして関係性を深め、商談数の増加につなげました。これら新規の商談案件についてはフィールドセールスとカスタマーサクセスが連携を密にすることで、リードタイムの短縮や成約率向上に努めました。プロモーション活動としては、9月から都市部のタクシーにデジタルサイネージ広告を展開し、価値訴求を行いました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末(2023年9月30日)の「オフィスステーション」シリーズの利用は、無料で提供している「オフィスステーション 労務ライト」の利用を含み、企業が30,623社(前期末比4,610社増)、士業が2,809件(前期末比342件増)となりました。

この結果、ビジネスソリューション事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は15億63百万円(前年同期比54.0%増)、営業損失は71百万円(前年同期は1億70百万円の営業損失)となりました。

(iv) 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は当社が所有するビルの賃貸収入で、安定した収益を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は53百万円(前年同期比4.4%減)、営業利益は14百万円(同6.1%減)となりました。

(v) システム開発事業

システム開発事業は、連結子会社エフアンドエムネット株式会社のシステム開発事業等になります。前期まではその他事業として区分していたものです。エフアンドエムネットでは、「オフィスステーション」シリーズを中心としたエフアンドエムが販売する商品などのグループ内向け開発が大部分を占めました。

この結果、システム開発事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は1億7百万円(前年同期比51.6%増)、営業利益は10百万円(前年同期は48百万円の営業損失)となりました。

(vi) その他事業

その他事業は、パソコン教室の本部運営及びFC指導事業等になります。パソコン教室の本部運営及びFC指導事業においては、受講生に対する積極的なカウンセリング、資格取得のためのサポートなどを強化することで継続率の向上に努めました。

この結果、その他事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は31百万円(前年同期比23.0%減)、営業利益は3百万円(同38.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は61億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億61百万円増加しました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産が3億57百万円増加した一方、現金及び預金が1億38百万円減少したことなどによるものです。

固定資産は82億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億9百万円増加しました。これは主に建物及び構築物(純額)が1億18百万円、その他(無形固定資産)が3億18百万円、投資有価証券が99百万円増加した一方、建設仮勘定が1億22百万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は144億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億71百万円増加しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は33億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億89百万円増加しました。これは主に賞与引当金が1億89百万円、その他(流動負債)が2億15百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は1億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ3百万円減少しました。これはその他(固定負債)が7百万円減少したことなどによるものです。

この結果、負債合計は34億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億85百万円増加しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は109億54百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億86百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益6億34百万円が計上された一方で、剰余金の配当を2億48百万円行ったことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は76.0%(前連結会計年度末は78.1%)となりました。

なお、特筆すべき重要な資本的支出の予定及びそれに伴う資金の調達は当面ありません。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ1億38百万円減少(前連結会計年度末比2.8%減)し、47億71百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は12億89百万円(前年同期比61.7%増)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益9億47百万円、減価償却費6億4百万円、賞与引当金の増加1億89百万円、その他の流動負債の増加3億34百万円があった一方、売上債権の増加3億70百万円、未払消費税等の減少95百万円、法人税等の支払3億3百万円があったことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は11億79百万円(前年同期比44.6%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出2億7百万円、無形固定資産の取得による支出8億68百万円、投資有価証券の取得による支出1億円があったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は2億47百万円(前年同期比13.1%増)となりました。これは主に配当金の支払2億47百万円があったことなどによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月12日に「2023年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想から変更ありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,909,140	4,771,093
受取手形、売掛金及び契約資産	812,412	1,170,084
商品及び製品	2,512	2,351
仕掛品	5,176	6,624
原材料及び貯蔵品	3,151	4,767
その他	130,476	173,273
貸倒引当金	△5,276	△8,636
流動資産合計	5,857,594	6,119,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,189,576	1,307,626
工具、器具及び備品(純額)	140,988	182,393
土地	1,281,627	1,281,627
建設仮勘定	122,168	—
有形固定資産合計	2,734,360	2,771,647
無形固定資産		
のれん	34	25
ソフトウェア	3,218,456	3,295,838
その他	127,409	446,300
無形固定資産合計	3,345,899	3,742,163
投資その他の資産		
投資有価証券	702,141	801,696
繰延税金資産	338,730	411,144
滞留債権	28,296	41,131
差入保証金	137,762	136,395
保険積立金	403,682	408,357
その他	8,905	8,746
貸倒引当金	△23,865	△35,799
投資その他の資産合計	1,595,654	1,771,671
固定資産合計	7,675,914	8,285,482
資産合計	13,533,509	14,405,042

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,346	9,702
未払法人税等	341,992	425,967
賞与引当金	604,914	794,846
その他	1,864,510	2,079,682
流動負債合計	2,820,764	3,310,198
固定負債		
退職給付に係る負債	70,152	73,616
負ののれん	730	640
その他	73,662	66,324
固定負債合計	144,546	140,582
負債合計	2,965,310	3,450,780
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	989,650	989,650
資本剰余金	2,168,059	2,168,059
利益剰余金	7,613,389	7,999,444
自己株式	△271,959	△272,059
株主資本合計	10,499,140	10,885,094
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69,057	69,167
その他の包括利益累計額合計	69,057	69,167
純資産合計	10,568,198	10,954,261
負債純資産合計	13,533,509	14,405,042



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	5,544,686	6,755,961
売上原価	1,760,769	2,261,624
売上総利益	3,783,917	4,494,336
販売費及び一般管理費	2,883,928	3,555,780
営業利益	899,988	938,556
営業外収益		
受取利息	356	235
有価証券利息	2,726	2,840
受取配当金	1,580	1,814
受取手数料	—	1,621
助成金収入	3,046	945
保険返戻金	1,164	—
除斥配当金受入益	608	327
その他	1,838	1,134
営業外収益合計	11,321	8,919
営業外費用		
その他	950	—
営業外費用合計	950	—
経常利益	910,360	947,475
特別損失		
固定資産除却損	233	0
特別損失合計	233	0
税金等調整前四半期純利益	910,127	947,475
法人税、住民税及び事業税	307,050	385,808
法人税等調整額	3,725	△72,461
法人税等合計	310,776	313,347
四半期純利益	599,350	634,128
親会社株主に帰属する四半期純利益	599,350	634,128

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	599,350	634,128
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,225	109
その他の包括利益合計	9,225	109
四半期包括利益	608,575	634,238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	608,575	634,238

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	910,127	947,475
減価償却費	439,252	604,518
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,708	15,293
賞与引当金の増減額 (△は減少)	115,088	189,931
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	5,595	3,464
受取利息及び受取配当金	△4,663	△4,890
固定資産除却損	233	0
売上債権の増減額 (△は増加)	161,873	△370,506
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△12,656	△2,903
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,330	356
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△175,003	△95,997
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△11,566	△27,572
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△24,628	334,954
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	—	△7,338
その他	1,041	858
小計	1,403,314	1,587,644
利息及び配当金の受取額	5,010	5,029
法人税等の支払額	△610,960	△303,221
営業活動によるキャッシュ・フロー	797,365	1,289,452
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△35,948	△207,390
無形固定資産の取得による支出	△778,762	△868,129
保険積立金の積立による支出	△4,674	△4,674
投資有価証券の取得による支出	—	△100,000
保険積立金の払戻による収入	3,503	—
その他	—	550
投資活動によるキャッシュ・フロー	△815,881	△1,179,643
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△97	△100
配当金の支払額	△219,044	△247,755
財務活動によるキャッシュ・フロー	△219,141	△247,855
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△237,657	△138,046
現金及び現金同等物の期首残高	4,289,556	4,909,140
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,051,898	4,771,093

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。